



まんだらげ

Vol. **57**
2021 SUMMER



橋杭岩(串本町)

Contents

- 特集 ……外来透析センターを開設しました
- NEWS ……入院センターのご案内
- 就任挨拶 ……循環器内科 教授
- Topics ……国産初の医療用ロボット「hinotori」での手術に成功
- Information ……高気圧酸素治療装置 2台目導入
最新鋭 MRI 装置の導入
全国初の創薬イノベーション研究で連携

理念

私たちは安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切に、十分な説明と同意のもとに、安全で心のもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

外来透析センターを開設し

概要

腎臓は、常に尿を作り、からだに溜まった老廃物を排泄し、水分を調整している我々のからだにとってなくてはならない臓器です。したがって、腎臓の働きが低下すると、からだの老廃物や水分を排泄できなくなり、老廃物が蓄積してしまうため、食欲低下、悪心、嘔吐、倦怠感などが出現するとともに、水分がからだに溜まることによって心不全や肺水腫を起こし、息切れ、呼吸困難などが現れやすくなります。

放っておくと命にかかわってしまいます。そのため、人工的に血液から老廃物や水分を取り除く「透析」が必要となります。当院では透析導入する入院患者さんや合併症により入院されている患者さんを対象に長年にわたり透析医療を提供してきました。このたび、2021年7月から、「透析導入後間もなく、また合併症のため安定した透析が困難である方」を対象として外来透析センターを開設しました。

透析とは

腎機能の低下によってからだの中に溜まった老廃物や水分を人工的に体外に除去させる方法が透析です。透析には「血液透析」と「腹膜透析」という2種類の方法があります（図1、2）。患者さんのライフスタイルや状態によって患者さん自身で選ぶことができます。それぞれにメリットとデメリットがあるた

め、担当医やご家族と相談の上選んでいただいています。ただし、途中で透析の方法を変更しなければならなくなる場合もあります。透析は腎臓そのものの機能を回復させる治療ではありませんので、腎移植を受けない限りは生涯にわたり続けていく必要があります。



(図1) 血液透析



(図2) 腹膜透析

我が国と和歌山県における透析患者さんの現状

我が国における透析を必要とする患者さんは年々増加傾向であり、2019年末の時点で全国で34万人の方が透析を受けています。また、透析を受ける患者さんの年齢も以前に比べて高齢化が進んでおり、現在透析を始める患者さんの平均年齢は、2019年末で70.42歳と2000年の63.78歳から大幅に上昇し、現在透析を受けてい

る患者さんの平均年齢も69.09歳と高くなっている現状にあります。

和歌山県においては県内全体で3038名(2019年末時点)の透析患者さんがおられ、平均年齢は69.81歳です。和歌山県においても全国同様に透析を受ける患者さんの高齢化が進んでいます。

ました

透析患者さんにおける心血管合併症

和歌山県のみならず我が国全体における人口高齢化を背景に、心筋梗塞、心不全、脳梗塞をはじめとした心血管合併症をお持ちの方が増えています。また、依然として糖尿病から腎臓が悪くなる患者さんも多く、心血管合併症は透析を受けている方の最も大きな合併症といえます。心血管合併症の

ある患者さんの透析は、血圧変動などが大きく、安定した施行が困難な場合もあり、急な合併症増悪に迅速に対応する必要があります。また、心血管合併症を悪化させないために日々の厳重な透析管理が必要となります。

当センターの特徴

1. きめ細やかな透析管理

透析条件設定からお薬の選択、シャント、栄養管理まできめ細やかな透析管理を行います。

2. 充実したチーム医療

他科との連携を軸に様々な合併症に対応いたします。

3. 誠実な診療姿勢

患者さんひとりひとりに一生懸命に向き合う姿勢を大事にしています。

外来透析センター



入院センターのご案内

患者さんに安心・安全な治療と入院生活を提供し、退院後の生活が不安なく送れるようにサポートします

入院センターの紹介

当院では、高度な医療を提供する「特定機能病院」として、急性期病院の機能を有し、1日に50人前後の予定入院患者さんを受け入れています。

入院患者さんの受け入れをスムーズに行い、患者さんが安心して安全な治療を受け、入院生活が送れるように平成30年1月に「入院センター」を開設しました。

「入院センター」では、入院

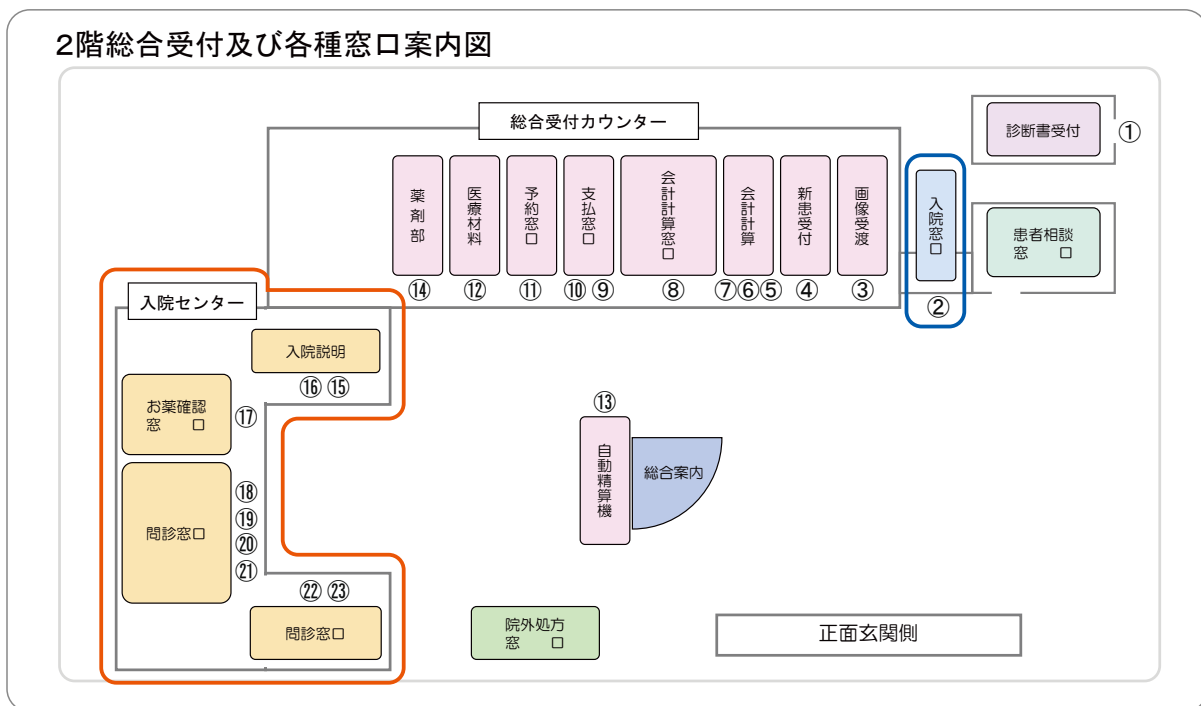
前からの支援を行っていますが、現在、順次対応診療科を増やしており、今後は全ての入院患者さんに支援を拡大していく予定です。

入院の目的が、手術であっても検査であっても、入院に際しては様々な不安や問題が伴います。「入院にはどんな準備が必要なのか」「お薬は今のまま服用してもいいのか」「手術までのスケジュールは」「介護の必要な親を

おいて入院できない」など心配なことがたくさんあります。そのような不安や問題を少しでも解消し、安心して入院していただけるように、看護師・薬剤師・事務職員が中心となりサポートさせていただきます。

入院が決まりましたら
入院センターに
お越しください。

2階総合受付及び各種窓口案内図



入院までの流れ

1

外来受診・
入院申込

診察の結果、入院治療が必要と医師が判断した場合、入院の申込みを行います。(医師が入院予約をします)



2

入院センター

入院が決まりましたら、2階入院センターへお越しください。

3

入院説明
(事務)

入院に関する手続きについてご案内します。病室や入院に必要な書類、入院に際して準備いただく物品等について説明します。また、入院生活についての説明も行います。



4

問診
(看護師)

入院前の日常生活や生活習慣について情報をお聞きます。

65歳以上の方には、簡単な認知機能検査を行いますのでご協力をお願いします。

入院生活について不安やお聞きになりたいことがありましたら、お気軽にお尋ねください。

入院生活を安心して過ごしていただけるようにサポートします。



POINT

- 介護認定をされているか、また介護認定の区分(要介護・要支援)などをお聞きします。
- 担当ケアマネージャーさん、かかりつけ医院、かかりつけ薬局などの情報についてもお聞きします。

5

お薬確認
(薬剤師)

患者さんの現在服用中のお薬を確認します。お薬の中には、服用していると手術などに影響を及ぼすものがあり、一時的に中止が必要となる場合があります。



お薬を確認するため、必ずお薬やお薬手帳をお持ちください。よろしくお願ひします。



6

入院日連絡

入院日が決まりましたら、お電話で連絡します。



POINT

- 現在服用されているお薬・サプリメントなどの服用状況やアレルギー・副作用歴などを詳しくお聞きします。

7

入院当日

入院当日は入院窓口②にお越しください。入院申込時にお渡しした手続き書類と保険証、限度額適用認定証、各種公費受給者証をご持参ください。

和歌山から高度循環器医療を世界に届ける



循環器内科
教授 田中 篤

令和3年6月1日付で、和歌山県立医科大学内科学第4講座（循環器内科）教授を拝命しました。謹んで皆様方に挨拶申し上げます。

当教室は増山善明教授が開設され、2代目西尾一郎教授、3代目赤阪隆史教授が継承され、発展してきた伝統ある教室です。先代の先生方が築いてこられた和歌山の循環器医

療を一層発展させるべく、臨床・研究・教育の更なるレベルアップに微力ながら尽力する所存でございます。

循環器内科は、心臓及び血管という生命の根源を担う器官を扱うため、迅速かつ正確な診断、非常に高度な治療技術が要求されます。そのため自ら日々研鑽し、心臓血管外科や救急科などの関連診療科と密な連携をとり、安全かつ安心な高度循環器医療をみなさまに届けられるよう努めて参ります。そして和歌山から、最新の医療を世界に発信できるよう、世界トップレベルの研究を行って参ります。

経歴

- 平成2年 大阪市立大学医学部 卒業
- 平成2年 大阪市立大学第一内科 入局
- 平成4年 ツカザキ記念病院循環器内科 医員
- 平成8年 財団法人浅香山病院循環器内科 医員
- 平成9年 馬場記念病院内科 内科医長
- 平成18年 石切生喜病院循環器内科 循環器医長
- 平成19年 和歌山県立医科大学内科学第4講座（循環器内科）講師
- 平成21年 ハーバード大学医学部・マサチューセッツ総合病院 visiting scholar
- 平成23年 社会保険紀南病院循環器科 循環器部長
- 平成25年 和歌山県立医科大学内科学第4講座（循環器内科）講師
- 平成26年 和歌山県立医科大学内科学第4講座（循環器内科）准教授
- 令和3年 和歌山県立医科大学内科学第4講座（循環器内科）教授

診療項目（対象疾患）

急性心筋梗塞や狭心症等の虚血性心疾患、不整脈疾患、弁膜症疾患、肥大型心筋症などの心臓の筋肉の疾患、大動脈疾患、成人になった先天性心疾患、静脈や肺循環の疾患、癌関連心血管病、膠原病関連心血管疾患などの疾患を診療対象にしています。特に最近では、カテーテルによる侵襲度の低い治療が、虚血性心疾患、不整脈、弁膜症等の分野に導入されており、当科で施行可能です。

専門外来など

循環器専門医による外来診療に加え、カテーテルによる弁膜症治療外来、不整脈外来、成人になった先天性心疾患外来、失神外来（近日開設予定）などの、より専門性の高い外来を開設しております。

Topics

国産初の医療用ロボット「hinotori」での手術に成功

当院では、国産初の医療用ロボット「hinotori（ヒノトリ）」を用いた前立腺がん全摘除術を4月6日から開始し、5月31日現在、4例の患者さんに施行しました。ヒノトリによる手術に成功したのは、神戸大学に続いて国内2施設目です。

当院では2012年から米国製の手術支援ロボット「da Vinci（ダヴィンチ）」を用いた手術を行っており、前立腺がん全摘除術については、2016年以降、全例をロボット支援手術により実施しています。ダヴィンチ Si とダヴィンチ Xi の2台を有し、他の術式とあわせてこれまでに1000例以上の手術の実績があります。

手術支援ロボットは高精細な3D画像と腕のように

滑らかに動くアームが特徴ですが、ヒノトリはアーム部分がよりコンパクトになるように設計されています。国産メーカーであるため、開発者との意思疎通が図りやすいなどの利点があり、今後の普及が期待されます。当院では今後も症例を蓄積していく予定です。



高気圧酸素治療装置 2台目導入

当院では、令和2年1月から高気圧酸素治療室を開設し、高気圧の中で100%酸素を体に取り込み、全身の酸素不足の改善を図る「高気圧酸素治療」を行っており、令和3年3月に治療装置を新たに1台追加しました。この1年間トラブルもなく治療を実施でき、当院では特に、突発性難聴や難治性潰瘍を伴う末梢循環障害の患者さんに対して適用しています。

今後は2台体制になったことにより、さらに多くの患者さんに治療を受けていただくことができるようになります。これからも患者さんの生活の質（QOL）向上のため、より安全な治療を提供するとともに、地域医療への貢献に努めてまいります。



適応疾患

- 1 減圧症または空気塞栓
※当院では実施しておりません。
- 2 急性一酸化炭素中毒その他のガス中毒（間歇型を含む。）
- 3 重症軟部組織感染症（ガス壊疽、壊死性筋膜炎）又は頭蓋内膿瘍
- 4 急性末梢血管障害
(a) 重症の熱傷又は凍傷
(b) 広汎挫傷又は中等度以上の血管断裂を伴う末梢血管障害
(c) コンパートメント症候群又は圧挫症候群
- 5 脳梗塞
- 6 重症頭部外傷後若しくは開頭術後の意識障害又は脳浮腫
- 7 重症の低酸素脳症
- 8 腸閉塞
- 9 網膜動脈閉塞症
- 10 突発性難聴
- 11 放射線又は抗癌剤治療と併用される悪性腫瘍
- 12 難治性潰瘍を伴う末梢循環障害
- 13 脊髄神経疾患
- 14 骨髄炎又は放射線障害

最新鋭 MRI 装置の導入

最新の技術を搭載した MRI 装置が令和3年2月、当院に導入されました。

本装置は、次世代の高速撮像技術により撮影時間を大幅に短縮することが可能です。一方、従来と同じ撮影時間であれば、より高精度な画像情報を得ることができます。また、従来は腹部臓器の検査を行う場合、20秒程度の息止めが必要でしたが、本装置では安静呼吸下でも検査が可能となります。

さらに、撮影時間の短縮に加え、検査時の騒音の低減、開口径を広くすることによる検査時の圧迫感の緩和など、患者さんのストレスをより少なくして検査を行うことができます。

になります。今後も中央放射線部では最新技術を用いた装置の導入により患者さんに優しい検査の実施を目指していきます。



全国初の創薬イノベーション研究で連携

本学大学院医学研究科医療データサイエンス学教室では、アステラス製薬株式会社と同志社大学文化情報学部とともに、医薬品研究開発における意思決定の最適化や治療効果の最大化を目指す全国初の創薬イノベーション研究を実施しています。

これまで臨床試験などの根拠に基づいて医療を行うことが重要であるとされてきましたが、現在ではそれぞれの患者さんにより適した治療を行う個別化医療の実現が推進されて

います。そのような中、本学とアステラス製薬との共同研究では、リアルワールドデータ（診療記録や臨床試験などの情報を匿名化し統合したビッグデータ）に基づく統計モデリングやシミュレーションを応用することで、治療効果を推測する統計的手法を開発し、患者さんの状態にあわせた医薬品の選択を可能にする医学統計情報基盤の構築に取り組んでいます。また、同志社大学では、医薬品の研究開発に伴う多様な選択肢の長所と短所を評価し、開発に係る意思決定の加速化及び最適化を目指しています。

この2つの研究を組み合わせることで、個々の患者さんに適合した医薬品や治療法をいち早く見つけ、医療現場への提供を早めることが可能となり、今後の医療の向上に大きく寄与することが期待されます。



記者発表する大学院医学研究科医療データサイエンス学教室 下川敏雄教授(左)

予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「予約制」とさせていただいております。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などから FAX でお申し込みください。

■医療機関からのご予約

- ① かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」にて患者支援センターに FAX 送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関に FAX 返信いたします。
- ③ 予約当日は、予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)をご持参のうえ、外来受付に直接お越しください。

患者支援
センター

FAX番号: 073-441-0805
受付時間: 月・火・水・金 / 9:00～19:00
木 / 9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■ご本人からのご予約

- ① かかりつけの医療機関などで紹介状をご用意ください。
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「当院予約センター」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)をご持参のうえ、外来受付に直接お越しください。

電話予約
センター

電話番号: 073-441-0489
受付時間: 月～金 / 8:30～16:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

病院ボランティア募集

患者さんが安心して治療を受けることができるようボランティアの方を募集しています。
※対象: 平日に活動してくださる18歳以上の方。詳細はお問い合わせください。

活動時間 外来: 8時50分～11時50分
問い合わせ先 和歌山県立医科大学附属病院
代表: 073-447-2300
医事課 ボランティア担当

みなさまの
温かいお力をお待ち
しております。

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。